



JASWHS 公益社団法人 日本医療社会福祉協会
Japanese Association of Social Workers in Health Services

平成 30 年 4 月 13 日 第 7 巻 (第 5 号)

発行：東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F

災害支援チーム TEL (03)3351-5038

FAX (03)5366-1058

Mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

もくじ

1. 2017 年度を振り返って
2. 石巻現地研修の企画と実地について
3. 7 年目を迎えた石巻への想い
4. 石巻だより
5. 災害支援チームからのお知らせ
6. 災害支援ニュース発行のお知らせ
7. あとがき

発売のお知らせ

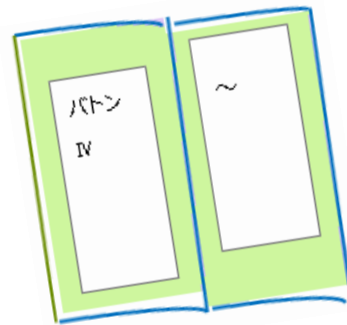
「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援の

バトンⅣ」

が発売されています！！

詳細は、協会ホームページ

及び 【1. 書籍販売】をご覧ください。



◀ 平成 30 年 2 月 28 日現在 支援活動地域別 仮設住宅報告 ▶

(宮城県保健福祉部震災援護室 仮設入居状況より抜粋)

石巻市応急仮設住宅現況報告

応急仮設住宅（プレハブ住宅）入居状況 (集約化進行中)

入居戸数 939 戸

入居人数 1,864 人

応急仮設住宅（民間賃貸借上住宅）入居状況

入居戸数 931 戸

入居人数 2,144 人

1. 2017 年度を振り返って

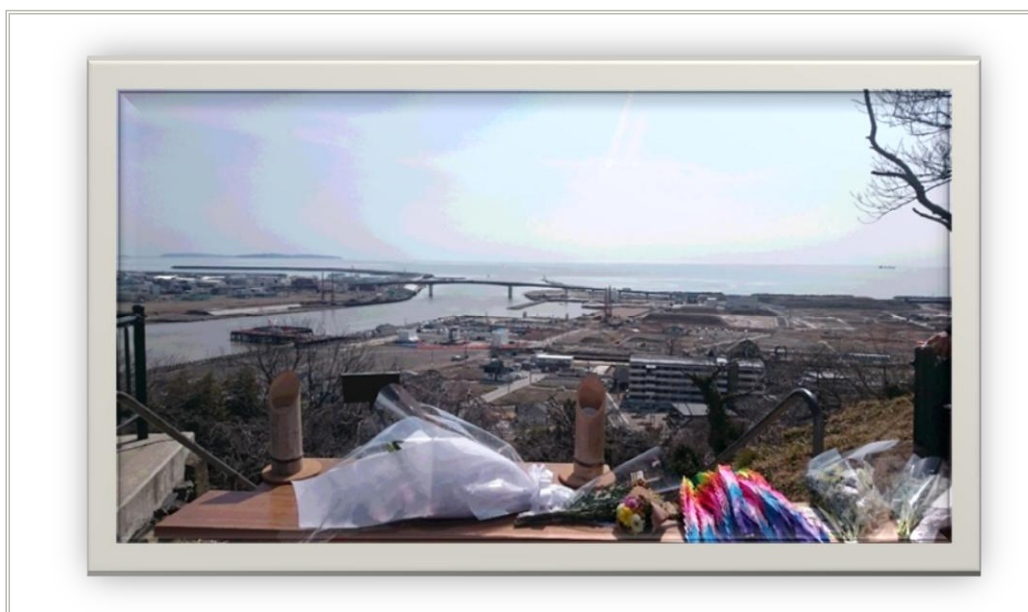
災害支援チーム

石巻現地責任者 福井康江

最近、コブクロの「バトン」という曲を聴いた。思いが込められた歌詞の一つ一つに、久しぶりに心がじんわりと温かくなり、未来に残ってほしい大切にしたい歌と出会った気がした。承知の通り、当協会の石巻現地での災害支援活動の経過を綴った「医療ソーシャルワーカーの支援のバトン」という冊子があるが、同じ“バトン”という名が付けられていることとこの曲が繋がり、現地活動の7年の年月の繋がり大きさ、重さを改めて感じ、だから尚、ここにきて支援を始めた頃の思い“初心に戻る”ことの意味を教えられた気がした。

この2017年度は、復興庁が示したもので言うならば、「復興・創生期間」2年目の年であるが、石巻市の復興基本計画で言うならば「再生期」の最後の年となっており、次年度から石巻市は、「発展期」へ入る時期となっている。この再生期の最終年において、私たちは「自立生活支援」、「生活再建」というキーワードから離れることはなかった。「生活」への支援の厳しさや憤り、自身の力が及ばないことへの虚しさを感じていることは否めない。しかし、日々出会う人々の表情や言葉や息遣い、その一つ一つからエネルギーをもらっていることは紛れもない真実である。

「いてくれてよかった」という言葉を今年度は沢山聞いたように思う。何ができたのか、何をやってきたのか、実のところまだ整理がついていない状況ではあるが、この言葉が今年度の一つの成果として素直に受け止めていたい。



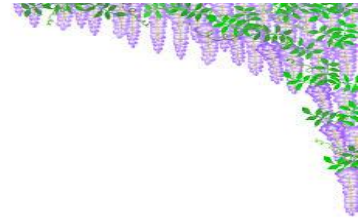
2018年3月11日 日和山からの景色

2. 石巻現地研修の企画と実地について

～ 「対人援助技術石巻現地研修会」 報告 ～

災害支援チーム

アドバイザー 西田 知佳子



石巻（災害支援）チームは2017年12月～2018年の3月にかけて4回の「対人援助技術石巻現地研修会」を企画し、統括責任者や災害支援チームがその研修会に協力した。

研修会の目的は、石巻で生活再建支援に関わる支援員や専門員が、地域住民の生活の安定化に協力できるよう、対人援助の知識を理解し、さらに支援員同士の意見交換等を行うことであった。内容は、支援するということの意味を身近なことから考えたり、コミュニケーションスキルを高めるための具体的なやり取りなど、どの回もわかりやすいものだった。自立生活支援員や専門員が30名ほど参加し、毎回好評だった。

この企画は市役所の担当課から賛同と協力をいただき、行政側の石巻（災害支援）チームに対する熱い期待を受け、開催した。福井さんが4回のうちの2回を講義し、全体に内容の濃いしっかりとした研修会となった。参加者から来年度も引き続き行ってほしいという希望があるそうで、石巻市の協会への信頼が大きいと言ってよい。

石巻（災害支援）チームの皆さん お疲れさまでした！



研修会の様子



3. 7年目を迎えた石巻への想い

災害支援チーム

賛育会病院 富永千晶



東日本大震災の活動については、色々な場所やこのニュースでも話をしているので…聞いたことあるという方もいらっしゃるかもしれません。

私は、横浜の職場で地震を体感しました。今までの地震とは違う揺れに、病院の壁に背中を引っ付けて座り込んでいたことを覚えています。それから、すぐに病棟に行き入院患者さんの避難活動に参加していました。帰宅したいという部下をなだめ、病院に宿泊しました。今は、すぐ帰宅せず職場待機を推奨しているようですがこの考えは間違っていなかったように思います。TVから見たあの甚大な光景を、今も忘れることはできません。何ができるのか？何をすればいいのか？体を張ったボランティア？それとも、もっと寄り添える支援はできないかと、とっさに頭の中でぐるぐると廻っていました。

当協会の石巻への事務ボランティアから現地ボランティアに参加するなかで、短期間のボランティア活動ではその土地のことを理解していない中で何ができるのか？もっと、長く滞在して生活支援をすることはできないのか？ただ、漫然とした想いを持っていたように思います。

そこから、3年後に1年間石巻市社会福祉協議会への出向という形で地元での支援活動に身を置いたことはとても貴重な体験でした。それは、この地に住んでいる人々の想いを簡単にくみ取ることは難しい。ボランティアとして寄り添うことも大事ですが、生活を共にしているから信頼してもらえる距離になって見えることがあるのではないかと思ったからです。

この1年間は、よそ者であり石巻人であり…東京に戻ると被災地の人として「なぜ、みな被災地に想いを馳せてくれないのか？」と悩んだりしていました。それは、何とも言えない感覚でした。

私が、石巻での生活を離れ、東京での暮らしに戻り、4年という歳月が過ぎていきました。石巻の災害は、私にどんなことを与えてくれたのか？とふと思うことがあります。それは、「災害につよい組織・まちをつくらなければいけないこと」、「その土地の歴史や風土を知り空気を知ること」、「その土地のひとたちの想いを尊重しながら一緒に考えること」、等が私の軸となっていることです。

復興することが最終目的ではなくて、この土地に愛着がありこの土地だからできる生き方を模索している人々が沢山いる土地・石巻は、帰る場所となりました。なので7年経って、この石巻は会いたい人に会いに帰る「ふるさと」です。



4. 石巻だより

災害支援チーム

現地担当 金崎 慶大



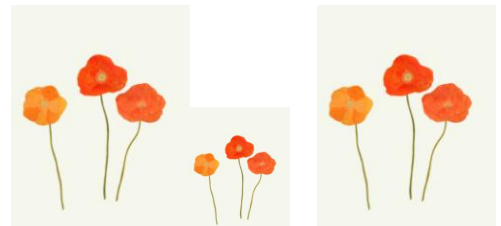
— 3年目に向けて2年目の石巻を振り返って —

ここ石巻での活動も2年目が終わろうとしています。1年目とはまた違った時間を過ごし、経験し、多くの人と出会い繋がることのできた1年であったと感じます。

東北では「復興から創生へ」という言葉をコンセプトに、様々なヒトやモノが変化し、作り上げられています。現地での支援内容にも変化が出てきたと実感しており、仮設集約から仮設閉鎖の時期を迎え、少しずつ活動のフィールドも仮設から復興住宅や地域へと広がりつつあります。その反面、復興できずに取り残されている方たちがいるのも現実であり、私たちが石巻にいる理由でもあります。

ソーシャルワーカーとして、支援者として、同じ人として、
今一度考え3年目に向けて行動していこうと思います。

現地担当 菊田 駿



石巻に来て、もう少しで2年が経過しようとしています。ようやく、石巻という地に足が着きかかってきたと実感しています。

1年目は石巻という土地や業務内容の理解で精一杯だったと思います。しかし、2年目の今年度は業務以外で石巻の住民さんと関わりたいと思い、石巻市民で構成された野球のクラブチームに入部したり、日頃から通っているジムのインストラクターの方と交流を重ねたり、直近では石巻市役所の他部署の方とリレーマラソンに参加させていただきました。職務を離れて、違った石巻の住民さんの姿を見ることが出来た1年だったと振り返ります。

3年目に向けて、この2年間に感じた石巻市の姿を総括し業務に繋げていきたいと思っています。そして、行政と住民の間に入り、制度の狭間に置かれている人たちと共に、行政に対して今ある課題を訴えていきたいと、来年度に向けて取り組んでいきたいです。

そんな石巻と今後も歩んでいきたいです。

現地担当 佐藤 なおみ

昨年 10 月に入職し、もうすぐ半年になります。
被災者の支援は個人の生活や地域に密着した課題が多く、
そこに介入していく過程がとても難しいと感じます。

震災 8 年目の石巻に貢献できるよう、毎日の業務を通して
ソーシャルワーカーとしての力を磨いていきたいです。



5. 災害支援チームからのお知らせ

【1. 書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』、
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅢ』
『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅣ』の
販売を行っています！



発災から 2011 年 9 月 30 日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011 年 10 月から 2012 年 1 2 月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支

援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅡ』に、2013年1月から2014年3月までの災害支援チーム、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、虐待防止センターでの支援・石巻市社会福祉協議会での支援、現地 SW との協働の記録を『バトンⅢ』にまとめました。

そして新たに、この5月下旬に『バトンⅣ』を発行いたしました。

2014年4月から2016年3月までの災害支援チーム、石巻市での復興公営住宅への入居支援・仮設住宅被災者自立生活支援・グループワーク支援・市民活動支援の記録です。

尚、売り上げの全額を皆様からの寄付として、本活動の資金にあてさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=50

バトンⅢ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=54

バトンⅣ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=59

【2. facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【3.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一

原さんが VTR にまとめて
下さいました。YouTube に
アップしましたので、是非
ご覧ください。「医療ソーシ
ヤルワーカー災害支援」で
検索すると見つかります。

URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4>・feature=youtu.be



6. 災害支援ニュース発行のお知らせ

次回発行予定 6月中旬

(原則として 3ヶ月に1回の発行予定)

7. あとがき

災害支援チーム事務局から

編集担当 西田

3月7日笹岡統括責任者と石巻に向かう。久しぶりに市民病院を訪ね、事務長と副看護部長にお会いした。市民病院は4月から新人が2人入職するが、それまではソーシャルワーカーが1人しかおらず、事務長は、彼女が業務の多さに疲弊しており、倒れるのではないかと心配していて、だれか経験のあるソーシャルワーカーが来てもらえないかとおっしゃった。

副看護部長は、ソーシャルワーカーの視点は看護とは違っており、協働することの重要性を痛感していると強調なさる。

どこの病院もソーシャルワーカーの確保に四苦八苦している状況のようで、現実は厳しい。
全国のソーシャルワーカーの方でどなたかいらっしゃらないでしょうか？ 石巻市民病院で1年間働いてもいいと思ってくださる方は！！

現地石巻事務所では昨年秋入職した石巻っ子が活躍している。3月7日の午後は4名の職員が1年間の振り返りを行った。責任者福井さんと金崎さん・菊田さんの間が年齢的に空いていたところに佐藤さんがうまく入ってくださった。さらに新年度はもう1人増えるという。

残す2年を5人のメンバーが本音を言い合い、衝突しながらも、それをリズムとして業務を行って

もらえればと思う。



~~~~~  
**補足**

1. **復興庁** 『「復興・創生期間」における東日本大震災からの復興の基本方針』PDFより抜粋

平成 28 年 3 月 11 日 閣議決定

平成 28 年度から平成 32 年度を「復興・創生期間」と位置付ける

2. **石巻市の復興基本計画**（石巻市ホームページ 更新日 2013 年 3 月 26 日）より抜粋

計画期間（平成 32 年度を復興の目標に定める）

**再生期** 「平成 26 年度から平成 29 年度まで（4 年間）」

**発展期** 「平成 30 年度から平成 32 年度まで（3 年間）」

~~~~~

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース 平成 30 年 4 月 13 日 第 7 卷（第 5 号） 作成 日本医療社会福祉協会 災害支援チーム事務局
